

# 『火垂るの墓』ウォーキングマップ

## ～御影コース～

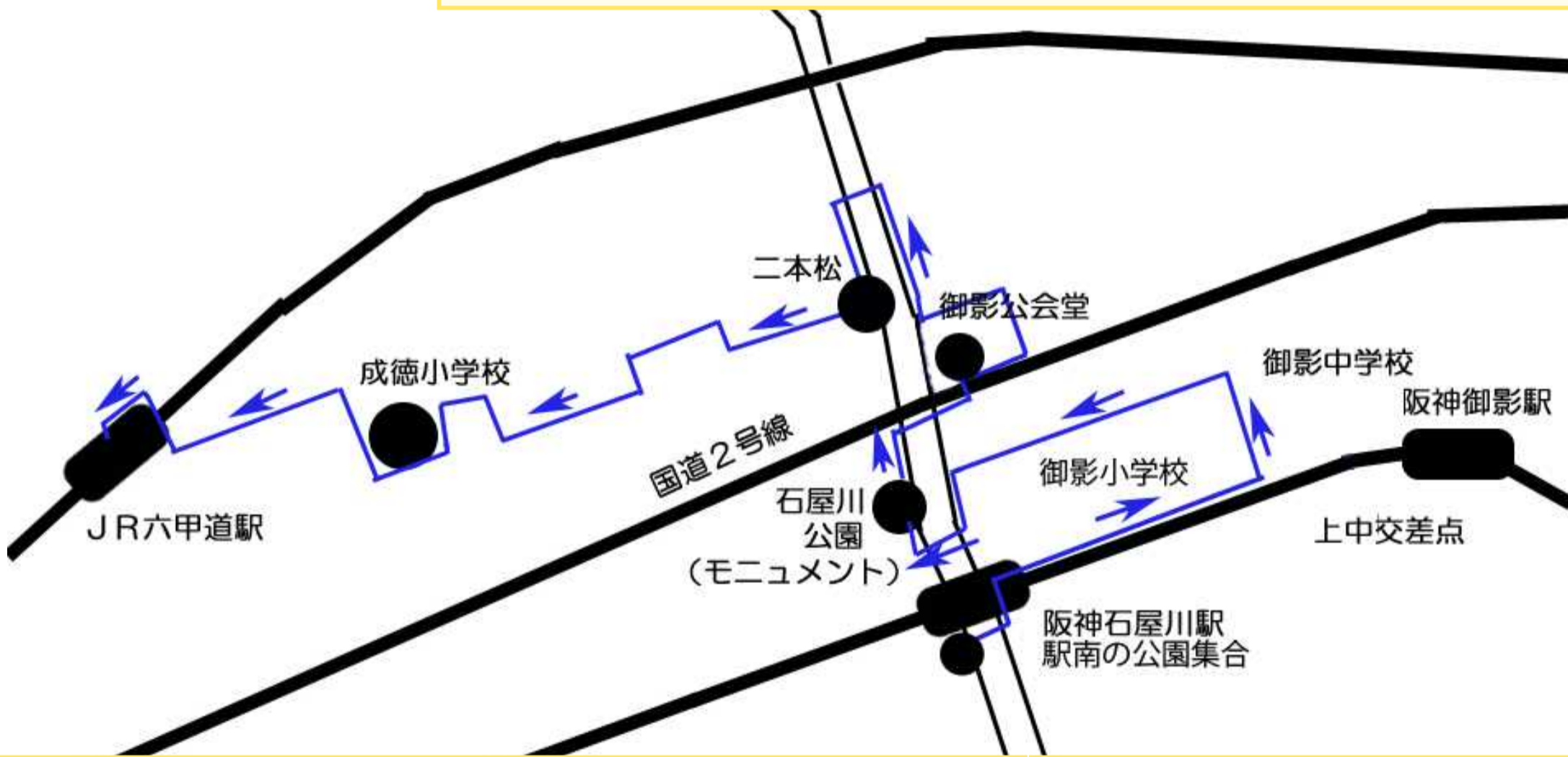
阪神石屋川駅 → 石屋川公園（火垂るの墓モニュメント）→ 御影公会堂 → 成徳小学校 → JR六甲道駅 約2.5km 2時間

**二本松** 空襲のあと、別々に逃げた母親と落ち合うため、清太と節子は御影公会堂の裏手の「二本松」という松林に向かいます。現在も松並木が整備されており、石屋川沿いに御影公会堂の側面・背面を望むことができます。



**御影公会堂** 御影町（のちに神戸市に合併）の公会堂として、酒造家・嘉納治兵衛の寄付金を元手に昭和8年（1933）に建設された建物。空襲にも阪神・淡路大震災にも耐えて残った、貴重な地域資源・近代建築遺産です。『火垂るの墓』のなかにも、あたり一面が焼け野原となったなか、鉄筋コンクリートの公会堂だけがぽつんと立っている様子が描かれています。

設計者の清水栄二は、当初神戸市営繕課に在籍し、のちに独立しました。御影公会堂と同じ東灘区内の魚崎に現存する旧魚崎町役場（現東灘区民センター分館）も、清水の設計作品です。



**成徳小学校** 清太と節子の母親が、大やけどを負って運び込まれた学校のモデルになった小学校。小説のなかでは、「御影国民学校」という設定になっているようですが、アニメに描かれている校舎や校庭の様子は、野坂昭如さんの出身校である成徳小学校がモデルとなっています。

【野坂昭如さんの実体験】野坂さんのお母さん（養母）は空襲で大やけどを負い、成徳小学校に運び込まれました。さいわいなことに、小説とは異なり亡くなることはなく、のちに快復されたそうです。



**石屋川公園** 火垂るの墓のモニュメントがある石屋川公園は、阪神・淡路大震災後に整備された防災機能を持つ施設です。空襲を避けて清太と節子が逃げた海岸近くの酒蔵地帯は、この石屋川のさらに下流の場所にあたります。

**上中交差点** 小説のなかで、御影公会堂の西側の二本松に清太と節子が逃げたとき、警防団の男性が上西、上中、一里塚という町名の住人に呼びかけます。このうちの上中が交差点の名前に残っています。清太たちは、この3つの町のうちのどこかに住んでいたという設定のようです。

マップ作成：「火垂るの墓を歩く会」実行委員会

（※このマップは、野坂昭如さんの小説『火垂るの墓』（新潮文庫刊）を参考に、作成させていただきました。）

野坂昭如「火垂るの墓」（新潮文庫刊『アメリカひじき・火垂るの墓』所収） 定価562円（税込）